

平成29年度 自己評価計画書 (中間評価)

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
1 生徒の学習意欲を高める授業を実践し、確かな学力を身に付けさせるとともに、表現する力・伝える力を育成する。	① 生徒に興味・関心を持って授業に取り組みせ、学力向上を図る。	教務課 各教科	【満足度指標】 授業がわかりやすいと感じる生徒が増加したか。	授業がわかりやすいと感じる生徒の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC、Dの場合、授業方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：B 前期生徒による学校評価アンケート結果 全体83%  1年79% 2年83% 3年88%	前年度は87%で数値が多少下がった結果となった。1年生の数値が79%と低い値を示しているが、高校に入って初めて見る専門教科の学習に慣れていない可能性もある。資格取得・検定試験に意欲的に取り組んでいると肯定的に回答した1年生は99%と高い値を示しているため、授業改善に取り組み、わかる授業の向上に努めていく。
	② 他の意見・考えを教えあう「学び合い」(言語活動)を取り入れた授業を推進する。	教務課 各教科	【努力指標】 「学び合い」(言語活動)に重点を置いた授業が実践できたか。	「学び合い」(言語活動)に重点を置いた授業を実践した教員の割合が、 A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	評価がC、Dの場合、改善策を検討する。	前期、後期に教職員を対象にアンケート調査	評価：A 前期教職員による学校評価アンケート結果 85%	生徒による授業評価では「自分で考え取り組む場面や生徒同士が話し合う機会など、生徒主体の授業がなされているか」との問いに対し、73%が肯定的意見であった。表現能力の向上が急に現れるわけではないが、後期に向けても言語活動の充実に取り組んでいく。
	③ 授業を中心に、学校生活全般を通じて、表現する力・伝える力を育成する。	教務課 各教科 各学年 生徒指導課	【満足度指標】 授業を含め学校生活全般を通じて「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒が増加したか。	「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC、Dの場合、方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：C 前期生徒による学校評価アンケート結果 全体60%  1年59% 2年49% 3年71%	前年度は「書く」ことに重点を置いた質問項目で60%であった。内容の理解ではなく、能力の向上を生徒自身が感じるためには時間がかかると思われる。後期に向けて、授業だけでなく学校行事なども利用し「表現する力・伝える力」の育成に努めていく。
	④ 各種検定試験を通して学習意欲を高める。	教務課 商業科	【成果指標】 3年生の資格の取得の意欲が向上し、資格を取得できたか。	3年生の1級3種目の取得者が、 A 180人以上である B 160人以上である C 140人以上である D 140人未満である	評価がC、Dの場合、指導方法及び内容を検討する。	年間を通じて調査	2月に担当課で集計	学校評価アンケートによると、資格取得・検定試験に意欲的に取り組んでいると肯定的に回答した割合が生徒95%、家庭でその姿を見ている保護者93%である。後期、3年生は進路決定していき、最後まで意欲的に取り組むよう指導する必要がある。

平成29年度 自己評価計画書 (中間評価)

石川県立金沢商業高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
2 ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育、おもてなし教育の更なる充実に取り組む。	① 相手の顔と目を見たさわやかな挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒指導課 特活課	【成果指標】 相手の顔と目を見てさわやかな挨拶ができたか。	年間を通して相手の顔と目を見たさわやかな挨拶ができた生徒の割合が、 A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：B 前期生徒による学校評価アンケート結果 全体90%  1年90% 2年88% 3年93%	前期アンケート結果によりB評価以上の割合は90%であった。学年別に見ると3年生が93%と比較的高かった。毎日の登校指導で挨拶指導は行なっているが校内における挨拶指導が不十分であると思われる。学年や教科担当を通じて連携を図っていききたい。
	② 生徒指導が主となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	生徒指導課	【成果指標】 年間を通じて遅刻をせず、始業時間を守っているか。	遅刻0の日が年間を通じて、 A 120日以上である B 100日以上である C 80日以上である D 80日未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	年間を通じて調査		7月末時点の遅刻0の日は、54日となっており、昨年同期より4日間増加している。教職員全員による登校指導を継続するとともに、遅刻者への指導や時間の厳守について周知を図っていききたい。
	③ 実践教育とマナー教育の一環である金商デパートの運営に積極的に取り組む。	特活課	【成果指標】 金商デパートにおいて学校で学んだことを生かしたか。	金商デパートにおいて、学校で学んだことを生かした生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、運営方法を検討	金商デパート終了時に、全生徒にアンケート調査		10月14日(土)15日(日)の開催に向けて、諸掛・クラス担当店舗・方針等は決定している。生徒の自主性を尊重し、学校で学んだことを活かせる金商デパートにしたい。
	④ 英語のコミュニケーション能力の向上に取り組む。	英語科	【成果指標】 英語の基礎的なコミュニケーション能力向上の目安として、全商英検2級(またはそれと同等の資格)以上を取得した人数を一定数確保できたか。	全商英検2級(またはそれと同等の資格)以上を取得した人数が、 A 100名以上である B 80名以上である C 60名以上である D 60名未満である	評価がC、Dの場合、英語学習が必要であることを認識させるために講話等の内容や機会を検討する。	全商英検2級(またはそれと同等の資格)以上の合格者数を調査		7月に実施された第1回実用英語技能検定試験の結果は、2級は10名中4名、準2級は4名中3名が合格した。9月10日に行われる全商英語検定に向けて、夏期休暇課題、夏期補習、2学期からの朝学習及び放課後学習で試験対策を実施している。全商英検2級以上の合格者が100名を超えることを期待したい。

平成29年度 自己評価計画書 (中間評価)

石川県立金沢商業高等学校

No. 3

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
3 生徒の希望する進路実現に向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施して、進路実現を図る。	進路指導課 (就職)	【成果指標】 就職希望者において、進路実現に向けて具体的な取り組みができたか。	就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、 A 95%である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、2・3年生就職希望の生徒を対象にアンケート調査	評価：D 前期生徒による学校評価アンケート結果 全体84% 2年75% 3年93%	進路実現に向けて、業者による面接指導等3年学年と連絡を密にしガイダンスの充実を行った。求人数も昨年を上回り、一人でも多くの生徒が希望する職種に就けるように、事前事後指導を今後とも連絡を密にして指導強化していきたい。また、2年生については、この時期3年・1年の行事のため2年生に対するガイダンスが手薄なので検討したい。後期には2年生に対するパネルディカッション、先輩と語る会などの行事を実施し、来年度に向けての意識の高揚に繋がるようなガイダンスになるよう内容を学年会と検討して開催したい。
	② 進学希望者に対して、補習やガイダンスの指導・働きかけを工夫、志望分野・志望校への進学意識を早期より高める。	進路指導課 (進学)	【成果指標】 進学希望者において、しっかりとした目的意識と学習意欲を持って受験勉強に取り組む、学力向上に努めたか。	進学希望者において、しっかりとした目的意識と学習意欲を持って受験勉強に取り組む、学力向上に努めた生徒が、 A 80%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、2・3年生進学希望の生徒を対象にアンケート調査	評価：A 前期生徒による学校評価アンケート結果 全体89% 2年93% 3年95%	進路実現に向けて、業者による学校説明会等2年・3年学年団と連絡を密にしガイダンスの充実を図った。また、看護系学校進学希望者には看護体験を、幼児教育(保育)系学校希望者には、ボランティアの紹介を積極的に働きかけたことが、進学意識の更なる向上につながったものと考えられる。今後とも学年団・保護者との連絡を密にして指導を強化していきたい。学力重視の流れを受け、大学入試(推薦入試)の内容が激変している昨今、正確な情報を適時生徒に伝え、変化に対応し、適切に指導していくことが課題である。
	③ 1年生に対して進路ガイダンスを計画的に行ない、進路実現に向けた取り組みを充実させる。	進路指導課 第1学年	【成果指標】 1年生において、希望進路に向けた具体的な取り組みができたか。	1年生において、希望する進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できた生徒が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、1年生の生徒対象にアンケートを調査	評価：B 前期生徒による学校評価アンケート結果 1年77%	1年生については上級学校・企業見学会を実施し、生徒の進路に対する意識が高まりそうな感想がみられた。今後のガイダンスについては学年主任と連絡を密に取り、検討してしていきたい。

平成29年度 自己評価計画書 (中間評価)

石川県立金沢商業高等学校

No. 4

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	特活課	【成果指標】 ベスト4以上の部活動が、目標を上回ることができたか。	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査	評価：B	県総体では女子バレーボール部、少林寺拳法部(女子)、新体操(個人男子)、馬術(個人)優勝、男子バレーボール部2位、ソフトテニス、ハンドボール3位であった。なお、チアリーディング部は県大会がなく、北信越大会5位(全国大会出場)も含めると8部となる。新人大会での活躍が期待される。
	② 文化部・商業部の県大会(総文・新人)において団体優勝のべ4競技以上を目指す。	特活課 商業科	【成果指標】 団体での優勝が、目標を上回ることができたか。	県大会(総文および新人)で団体優勝をする競技が、 A のべ5競技以上である B のべ4競技以上である C のべ3競技である D のべ2競技以下である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査	評価：C	県高文連商業部大会では、珠算競技・電卓競技・ワープロ競技が優勝した。新人大会での活躍が期待される。
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実、活性化を目指す。	特活課	【成果指標】 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組めたか。	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、活動内容や取り組み方を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：B 前期生徒による学校評価アンケート結果 全体76% 1年80% 2年74% 3年75%	自己評価においては良好であるが、ボランティア委員会で1学期に学校周辺清掃活動を1回行っただけであり、また各部活動では37部活動中、活動の報告があったのは8部にとどまっている。2学期にはすでにボランティア予定の入っている部活動が数部あるのでその数値は増加すると思われる。
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒がもち、自主的に行動することを目指す。	保健課	【成果指標】 美化委員会を中心に清潔な環境の維持に努め、清掃・節電・節水やゴミ分別の意識を高められたか。	清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をしっかりとできる生徒の割合が、 A 98%以上である B 95%以上である C 90%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：B 前期生徒による学校評価アンケート結果 全体96% 1年生97% 2年生96% 3年生94%	清掃やゴミ収集の分別等、概ね満足できるが、学年が上がるにつれて取り組みが少し下がっているため、2学期以降は掲示物や集会等を使いながら、全校生徒に呼びかけて、是非とも後期はAを達成したい。